

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600087		
法人名	株式会社 ほほえみ		
事業所名	グループホームほほえみ 1階		
所在地	苫小牧市北栄町4丁目13-3		
自己評価作成日	平成28年2月1日	評価結果市町村受理日	平成28年3月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaikokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0193600087-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく、家庭的な雰囲気を大切に、入居者様が安心して過ごせるよう、スタッフが楽しく仕事ができるよう会話、笑顔のたえないホーム作りを目指しています。共に喜んだり、悲しんだりとホームがひとつの家族のような関係作りも大切にしています。また、医療機関や訪問看護との連携により日々の健康管理や看取り介護にも積極的に取り組んでいます。これからも、地域との繋がりを大切にしながら、入居者様やご家族様に安心・信頼していただける様なホームを目指していきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームほほえみ」は、自然豊かな遊歩道に隣接した静かな住宅地に立地している。近くにホームセンターや大型ショッピングセンターもあり、生活の利便性に優れている。近隣の幼稚園の運動会に招待されたり焼き芋のお裾分けを戴くなど、子供達と年間を通して交流している。代表者と管理者は、日頃から職員の見解や提案に耳を傾け、働きやすい職場環境の整備に努めている。代表者を中心に常に向上心をもって運営やケアに向き合い、前回の課題にも積極的に取り組んでいる。職員は、理念や身体拘束の禁止行為についてももしっかり理解を深めている。日頃の会話や家族からの情報を基に各利用者の思いを把握し、職員間で活発に意見交換しながら介護計画を作成している。一人ひとりの得意な部分を上手く引出すような声かけや働きかけをしながら、それぞれの利用者が役割を持って生き生きと生活できるように全職員で温かな支援を行っている。本人や家族の意向に沿って看取りにも積極的に取り組み、看取り後には家族対応なども含めた振り返りを行いながら開設以来10名の看取りを実施している。利用者手作りの靴下カバーを身に着けながら明るい笑顔で仕事に携わる職員の姿は温かな家庭を感じさせ、利用者家族の安心感に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア理念をホール内に掲示し、スタッフ間で共有し実践に繋がるよう取り組んでいる。	「ご家族に安心と信頼を、そして地域と共に歩むホームを目指します」という地域密着型サービスを意識した3項目からなる基本理念を基に、独自のケア理念を作成している。会議や業務の中で確認して理解を深め、全職員で実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方々や近隣の幼稚園との交流を図っている。地域ネットワークに参加交流している。	幼稚園の運動会に出かけたり、焼き芋のお裾分けを戴いている。お泊り保育の時には事業所からスィカを差し入れるなど、年間を通して幼稚園と交流している。また、小学校でキッズサポーター養成講座を開催したり地域のお祭りに出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の支援や、理解に結びつくよう運営推進会議、や外部評価の公表などを通し、情報提供をしている。また、近隣の小学校に出向き認知症サポーターの養成講座を開き、認知症についての理解や支援方法を広めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民やご家族、地域包括職員の方々へ出席していただき、情報交換を行い、話し合った内容はサービス向上に繋がるようスタッフ間で共有している。	地域包括支援センター職員から情報を貰い、地域との交流や看取りの問題、災害対策などをテーマに年度末に次年度の年間計画を作成して定期的に開催している。会議案内は送付しているが、家族の参加は少なくなっている。	会議案内にテーマを記載し、参加できない家族の意見も事前に聴き取りながら会議に活かすよう期待したい。また、議事録を全家族に送付するよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や研修の場などを利用し、情報交換や意見交換をしながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	代表者は、市役所を訪問して介護保険についての情報を貰ったり、介護に関する市の取り組みや生活保護者の家賃制度などについて聞いている。管理者も、介護認定の更新手続きなどで市役所を訪問するなど日頃から連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく理解できる様、研修等に参加し、ミーティングの場などで意見交換や、話し合いを重ね取り組んでいる。マニュアル等をスタッフ全員がいつでも見られる様にしている。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載したマニュアルを整備し、外部研修後に報告研修を行っている。年1回内部研修を行うと共に、日頃から事例に沿って適切な対応について確認している。日中は施錠することなく、安全面に配慮しながら利用者の自由な外出を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止に努める為、研修等に積極的に参加し、スタッフ間の情報を共有し、虐待が見過ごされることがない様に注意している。		

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全スタッフが理解する様研修会等を通して学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点を解決できる様、十分な説明を行い、理解・納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にホームでの様子を説明し、意見や、要望を聞くようにしている。また、面会簿に意見等が記入できるように工夫している。ご家族様と入居者様とのコミュニケーションを大事に考えている。	退去時に、職員の対応などについて家族アンケートを実施している。家族の意見や要望は、内容に応じて介護記録や連絡ノートに記載しているが、今後は些細な意見や要望を個別に記載しながら、更に家族の想いに寄り添っていきたくと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフとの意見交換は随時行っている。年1回の個別懇談も行い、意見や提案を聞く機会を設けている。実行可能な意見、要望については速やかに反映させている。	代表者や管理者は、日頃から各職員が話しやすい環境を作りながら意見や提案を聴き取っている。会議や日々の業務の中でも全職員と率直な意見交換が行われている。職員の意見を取り入れて、会議の開始時間なども変更している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況を把握し待遇改善、職場環境の整備に努めている。また、向上心ももてる様、資格習得の為の休暇や手当て等の制度を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加できるよう勤めている。働きながら、初任者研修等にも積極的に参加できるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等に参加し、同業者との交流が出来るよう取り組んでいる。また、他施設の見学等も出来るよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、安心を確保する為の関係づくりに努めている。そのために、ご家族や関係各位から情報収集をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心して利用して頂くために、家族等が困っていること、不安、要望に耳を傾け信頼関係を築ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の話し合いや情報収集した中で、どの様な支援が必要なのか専門的な目線で見極めるとともに、その時必要な支援が出来る様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護する側の立場だけでなく、介護される側の立場で考える様心がけている。また、暮らしを共にする家族という関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様とご家族様の絆を大切に、情報交換、情報の共有をし共に支えていける関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前より続けていた、マッサージを受けたり、馴染みの店に買い物に行くなど、馴染みの関係が途切れないよう支援を行っている。	近所に住んでいた方が数人で来訪することもある。以前住んでいた町内会の集まりに参加したり、家族の送迎で、クラス会や法事、遠方の親戚に出かける利用者もいる。趣味の買い物なども、個別に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様個々の性格や習慣を把握し、入居者様同士の関わり合いが出来るよう、空間作りも含めて支援に努めている。。		

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了していても、今までの関係性を大切にしている。ご家族様より連絡を頂いて家に出向き、相談や支援に努めているご家族様もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や行動の変化を通して、入居者様の希望や意向を把握できるよう努めている。困難な場合はご家族様にご協力頂いている。	利用開始時に「フェイスシート」を作成して、趣味や嗜好も把握している。家族から昔の様子を聞きながら思いを把握することもある。変化は「アセスメントシート」に追記し、毎年書類を更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族様から頂いた情報をまとめ、スタッフ間で共有し、サービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録等を利用し、個々の生活リズム、身体状況の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族様の意見を基に、3ヶ月の期間での見直しをし、月1回のモニタリングを行い、現状に添った介護計画を作成している。	全員の介護計画に沿って毎月モニタリングを行い、計画作成担当者を中心に3か月毎に全職員で更新計画を作成している。介護計画は、分かりやすく本人にも説明してサインを貰うこともある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、連絡ノートを活用し変化、気づき等があった場合はスタッフ間で話し合い計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様の状況に合わせた、さまざまなニーズに対応し、柔軟なサービスが出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや幼稚園との交流、バーベキューや買い物など暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師による往診や必要に応じて外来受診を行っている。また、緊急時の連絡体制を整え、適切な医療を受けられるよう支援している。本人、ご家族様の希望する医療機関の受診の支援も行っている。	かかりつけ医を継続している利用者もいるが、殆ど受診支援は事業所で行っているため、主治医と連携した支援が行われている。受診状況は、「受診記録」に個別に記載して電話や手紙で家族に伝えている。	

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と24時間連絡可能な体制になっており、週1回の定期訪問で情報交換をし、適切な受診や医療が受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時には、安心して治療を受けられる様また、早期退院できる様、情報交換、相談等病院関係者との関係作りにも努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取り介護についての説明を行い、医療機関や訪問看護ステーションと連携を取りながら、スタッフ全員で支援に取り組んでいる。また、入居者様の状態に合わせてご家族様との話し合いを随時行っている。	重度化と看取りの指針を作成し、利用開始時に説明している。体調変化に応じて医師の判断の下、家族の意向に沿って看取りの同意書を作成している。訪問看護師に相談しながら昨年1名の看取りを行い、開設以来10名の看取りを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践力が身につくよう、救命救急の講習を受講し、スタッフ全員が救急マニュアルを把握できる様努めている。ミーティング等でも随時話し合いをしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、昼、夜間の避難方法を確認している。また、災害を想定して備蓄品の保管をしている。	近隣に災害時の協力をお願いし、町内会役員にも避難訓練への参加を依頼しているが、協力は得られていない。地震災害などを想定して、今後はケア別の対応について職員間で確認したいと考えている。	運営推進会議などで地域との協力体制を再確認し、町内会や近隣住民に、避難訓練への参加を今後も継続して依頼するよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	まわりの状況を把握しながら、それぞれに合わせた声かけを行っている。	明るく優しい言葉がけで対応し、申し送りは利用者に聞こえないように行い、個人的なことも居室で確認している。居室の入り口に好みの暖簾を下げて、室内のプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表すことが出来るよう、自己決定ができるようコミュニケーションを通して個々の思いを理解するよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで、本人の希望に沿った日々が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を利用し、身だしなみに気をつけている。衣服等は、その人らしいオシャレができる様本人の意思を尊重し支援している。		

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みの味つけや献立の変更により、食事が楽しみになるよう配慮している。本人の負担にならないように、調理や片付けをスタッフと共に行っている。	献立を見て、時には各ユニットで利用者の好みの料理に変更している。赤飯を炊いたり、事前に好みのネタを決めて出張握り寿司を楽しむこともある。屋外でバーベキューを楽しみ、利用者の誕生日には出前などでお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し1日を通し栄養や水分が確保できるよう努めている。また、必要に応じてきざみ食やトロミをつけるなどの支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがいや義歯の洗浄等で口腔内が清潔に保てる様支援している。研修会を通して口腔内の清潔保持に取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし支援を行っているが、個々の力や排泄パターンに合わせて紙パンツの使用、夜間のポータブルトイレの使用などの支援も行っている。	3分の2程の方は自力で排泄ができ、昼夜間とも可能な限りトイレでの排泄を支援している。入居後に職員の連携で自立に向けて取り組み、おむつから布パンツになり自力で排泄が可能になっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量に気をつけ個々の排泄パターンを把握し、トイレに行く習慣が出来るよう支援している。必要に応じて腹部マッサージや服薬、乳製品や食物繊維の摂取など予防にも取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間は決めておらず、本人の希望や体調に合わせて入浴できるよう支援している。	いつでも入浴が可能な体制で、希望の時間帯に週2回以上の入浴を支援している。身体状況によってはシャワー浴で対応することもある。足浴や手浴も行っている。普段は入浴剤を使用して楽しみ、ゆず湯で季節感を味わうこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や、身体状況に応じて、安心して眠れる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師より処方された薬を用法、用量等スタッフ全員で理解し、スタッフ管理のもと服薬支援を行っている。また、服薬後の変化等に注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活歴などを活かし、それぞれが趣味、嗜好品等で楽しめるよう支援している。嗜好品の買い物など気分転換になるよう支援もしている。		

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り、本人の希望に添って散歩や買い物、外食、地域行事への参加等の支援をしている。	近隣を散歩したり、畑の世話や収穫で外気に触れている。個別の買い物や近くのパークゴルフに参加する方もいる。緑ヶ丘公園やウトナイ湖方面で花見を楽しんだり、夕張に紅葉見学などで数人ずつ出かけている。冬の初め頃にはショッピングセンターで買い物や食事を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、買い物や外食等に同行し、お金を使うことの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望通りに、手紙や電話の取り次ぎなど支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	絵や花、写真などで季節の移り変わりを感じていただけのような、空間作りをしている。また、居心地よく過ごせるよう、清潔に注意し、季節によっては、扇風機や加湿器などの使用で温度、湿度に配慮している。	居間は窓が多く開放的で心地よく、ソファの配置を工夫して団欒が楽しめるような空間になっている。居間から離れた場所にトイレなどがあり、プライバシーにも配慮した造りになっている。季節の作品や手作りの装飾、行事などの写真が飾っており、家庭的で温もりのある雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に新聞やテレビを観るなど思い思いに過ごせる様、家具の配置などに配慮している。スタッフが入り入居者様同士が楽しく会話等ができるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族様と相談しながら、馴染みの物を配置するなど居心地の良い居室になるよう工夫している。時には、転倒のリスクなどを考えて、ご家族様と相談しながらその時の状況に合わせて、部屋の模様替えなどを行っている。	居室内には馴染みのソファ、飾り戸棚、鏡台、仏壇、小物類、趣味の物などが持ち込まれている。家族の写真や百寿お祝いの写真なども飾ってある。窓際で花や観葉植物を育てるなど、本人が居心地よく過ごせるような居室づくりになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に快適に過ごせるよう、また、自立した生活が送れるよう、できること・わかることを活かせるように支援している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600087		
法人名	株式会社 ほほえみ		
事業所名	グループホームほほえみ 2階		
所在地	苫小牧市北栄町4丁目13-3		
自己評価作成日	平成28年2月1日	評価結果市町村受理日	平成28年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく、家庭的な雰囲気を大切にし、入居者が安心して過ごせるよう、スタッフが楽しく仕事ができるよう会話、笑顔のたえないホーム作りを目指しています。共に喜んだり、悲しんだりとホームがひとつの家族のような関係作りも大切にしています。また、医療機関や訪問看護との連携により日々の健康管理や看取り介護にも積極的に取り組んでいます。これからも、地域との繋がりを大切にしながら、入居者様やご家族様に安心・信頼していただける様なホームを目指していきたいと思ひます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0193600087-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年2月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほほ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほほ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほほ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほほ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほほ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員でケア理念を考え、ホール内に掲示し共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方や近隣幼稚園との交流をしている。地域ネットワーク等に参加交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の小学校に出向き、認知症サポーターの養成講座を開くなど、認知症についての理解や支援方法を広めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民やご家族様、地域包括職員の方々に出席していただき、情報交換を行っている。ここでの意見はサービス向上につながる様スタッフ間で、話し合っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や研修の場などで、情報交換や意見交換をしながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	積極的に研修に参加し、ミーティング等で意見交換をし拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加し、スタッフ間の情報交換や意見交換を密にし、虐待が見過ごされることがない様に努めている。		

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、成年後見制度を利用している人がいない為勉強会等を通じて、学んでいきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点を解決できる様、十分な説明を行い、理解・納得を得ている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や要望を聞くようになっている。面会間隔が空いているご家族様とは電話連絡等で意見、要望を聞いている。また、ご家族様が気軽に意見や要望を出しやすいように面会簿に記入できるように工夫している。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフとの意見交換は随時行っている。年1回の個別懇談も行い、意見や提案を聞く機会を設けている。実行可能な意見、要望については速やかに反映させている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状態を把握し待遇改善、職場環境の整備に努めている。また、向上心がもてるよう資格習得の為の休暇や手当等制度を設けている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加できるよう努めている。内部での研修も行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等に参加し、同業者との交流が出来るよう取り組んでいる。また、他施設の見学なども行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、面談の機会を設け十分な話し合いの時間を作り、ご家族様や関係各所から情報を頂き、不安や要望に耳を傾け、安心できる関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望、不安に耳を傾け情報交換や情報の共有がけきるよう、関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に短期間での介護計画書を作成し、必要としているサービスを見極め、その都度カンファレンスを開くなどで見直しをしている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	困難なことのお手伝いをするということで、一緒に生活をしている意識を持ち、関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人にとって、何が1番の支援なのかを常に考え、ご家族と情報交換をしながら、共に支えていく関係作りに努めている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの医療機関や美容室などに行く支援を行っている。また、ご家族様の協力のもと町内会の集まりや選挙等にも参加できる様支援に努めている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの性格を把握し、協力して出来ることをお願いしたり、一緒に楽しめる空間作りに努めている。			

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了したご家族様とも、今までの関係性を大切にしている。ご家族様より連絡を頂いて家に向いて相談や、支援に努めているご家族様もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを通し、個々の希望や意向の把握に努めている。困難なケースの場合は、ご家族様と情報の共有をしながら協力を頂いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの情報や、入居前のサービス情報などを頂き、経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録等を利用し、個々の生活リズム、身体状況をよく観察し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族様の意見、要望を反映させ、月1回モニタリングを行っている。変更があれば、ご家族様に報告、相談をし、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、連絡ノートを活用しながら、スタッフ間の情報共有や介護計画の作成、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様のニーズに対応できる様、状況に合わせて随時話し合いの場を設けるなど、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや幼稚園との交流、バーベキューや買い物など暮らしを楽しめる様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師による往診や必要に応じての外来受診を行っている。また、緊急時の連絡体制を整え、適切な医療を受けられる様支援している。本人、ご家族様の希望する医療機関への受診の支援も行っている。		

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と24時間連絡可能な体制になっている。週1回の定期訪問で情報交換をし、適切な受診や医療が受けられる様に支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院時には、安心して治療を受けられる様また、早期退院できるよう、情報交換、相談等病院関係者との関係作りに努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時時に看取り介護についての説明を行い、医療機関や訪問看護ステーションと連携を取りながら、スタッフ全員で支援に取り組んでいる。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践力が身につくよう、救命救急の講習を受講し、スタッフ全員が救急マニュアルを把握できる様努めている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、昼・夜間の避難方法を確認している。			

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	周りの状況を確認しながら、声の大きさや、話す距離など、一人ひとりに合わせた対応を心がけている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通し、本人の思いや希望を表すことが出来るよう、自己決定ができるよう働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ一人ひとりのペースに合わせて、1日を過ごせるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれや身だしなみは、本人の意思を尊重し思うままに出来る様支援している。			

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえ、食器の片付けなど入居者様の負担にならない様に一緒に行っている。また、入居者様の希望に応じて、メニュー変更や出前などで食事を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、特に水分量が不足している時は、本人の好みの物を摂取できる様支援している。食事時間も本人の状態や能力に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きうがいを実施している。必要に応じて歯科医の口腔ケアを利用したり、研修会に参加したりと口腔内の清潔に取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を基本に支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容や水分量に気をつけながら、個々の排便パターンに合わせて腹部マッサージを行ったり、乳製品の摂取などを行っている。必要に応じて、服薬等の対応もしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間や曜日は決めていなく、本人の希望を優先し入浴を楽しんで頂いている。入浴を好まれない方には、こちらから、声かけを行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や、身体状況を見極めながら、安心して眠れるよう、支援している。無理に寝る様な声かけは行わない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師より処方された、薬の用法・用量等スタッフ全員で理解し、スタッフ管理の元服薬支援を行っている。服薬後の体調の変化等に注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	チラシ折り、編みものなど、それぞれが趣味などで楽しめる様支援している。食器拭きや片付けなどを役割として出来るような支援もおこなっている。また、嗜好品の買い物など気分転換になる様支援している。		

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を聞き、買い物や外食、散歩など出来る限り、外出の機会を設け支援している。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、外出時にお金を使う事の大切さや楽しさを理解して頂けるよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙の取次ぎは本人の希望に沿った支援を行っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事ごとに入居者様の写真やお花を飾るなど居心地良く過ごせるよう工夫している。また、季節に合わせて、扇風機や加湿器を使用し、温度、湿度に気をつけ快適に過ごせる様工夫している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にソファーや丸椅子を置き、気軽に会話や休憩ができる様にしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族様と相談しながら、自宅で使用していた馴染みのある物を配置することで、居心地のいい居室作りをしている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状況を見極め、自立した生活が送れる様支援している。また、死角になる廊下に鏡を設置するなど工夫している。また、転倒等のリスクがある場合は周りに物を置かないなど安全に過ごせる様工夫している			

目標達成計画

事業所名 グループホーム ほほえみ

作成日：平成 28年 3月 11日

市町村受理日：平成 28年 3月 15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	会議案内にテーマを記載し、参加できない家族の意見も事前に聞き取りながら会議に活かすよう期待したい。また、議事録を全家族に送付するよう期待したい。	家族の会議への参加や、意見等を収集できる様取り組んでいく。	会議のテーマを設定し、議事録にその都度テーマを記載し次回の会議参加と、意見の収集に取り組む。	6ヶ月～
2	35	運営推進会議などで地域との協力体制を再確認し、町内会や近隣住民に、避難訓練への参加を今後も継続して依頼するように期待したい。	避難訓練に地域住民の方にも参加していただけるよう取り組んでいく。	ホーム近隣だけでなく、町内会との連携に努め、避難訓練に参加していただける様に取り組んでいく。	6ヶ月～
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。